

プログラム言語D		講義	教授 樽井 勇之
科目カテゴリー	経営・経済コースの専門選択科目	科目ナンバリング	23002205

1. 授業のねらい・概要

Java 言語によりプログラミングの応用を学習し、オブジェクト指向プログラミングを理解することがねらいである。

- (1) 配列の考え方、使い方を学習し、配列を使ったデータ処理プログラムを作成する。
- (2) Java 言語のプログラム作成は全てクラス単位で作成される。クラスを構成するメソッドの考え方と作成の方法を学習する。
- (3) Java のプログラム作成はクラスを宣言することから始まる。クラスを作成することを通して、オブジェクト指向プログラミングを理解する。

2. 授業の進め方

テキストの演習問題に基づいてプログラムを作成する。講義と実習中心の授業形式で進める。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. パッケージとインポート
2. String クラス (クラスの中身)	10. ファイルの読み込み
3. String クラス (メソッド)	11. 可変サイズの配列
4. 基本データ型ラッパークラス	12. ランダム数
5. クラスのフィールド	13. まとめ
6. キーボードからの入力	14. プログラミング期末課題 (基礎)
7. キーボード入力から正しい回答を得る	15. プログラミング期末課題 (応用)
8. プログラミング中間課題	

4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

プログラムを理解するため、パソコンを使ったプログラミングが1時間以上必要である。

5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

課題を出題後にプログラミングのヒントを与え、授業時間終了前に模範解答を説明する。

6. 授業における学修の到達目標

プログラムの動作原理やオブジェクト指向の概念が理解できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

課題の成果物 (60%)、定期試験の結果 (40%) によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：豊沢聡、「情報演習 8 ステップ 30 Java ワークブック」、カットシステム

9. 受講上の留意事項

- ・受講条件として基礎科目である「プログラム言語 C」を単位修得済みであること。
- ・演習を中心に進めるので欠席しないように。操作や意味がわからないときには積極的に質問すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。